
遊戯王GX・顔芸しても良いですか？

佐々木君

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX・顔芸しても良いですか？

【Nコード】

N1447P

【作者名】

佐々木君

【あらすじ】

何時の間にか遊戯王GXの世界に転生してたーーーー！
しかもマリク憑依してるーーーー！
これからどうしようか？そうだ！デュエルアカデミアへ行こう！

ブローグ

デュエリスト育成専用スクール通称『デュエルアカデミア』
幾つもの実力派企業の中でも最も有名で、知らぬ者は居ないとも言われる、あの海馬コーポレーションが主催する学園としても有名である。

その有名学園の実技試験が行われている会場に、一人の青年が居た。

『受験番号11番、デュエル場が上がってください。繰り返します。
受験番号——』

（おい呼ばれてるぜ？・・・幸一？）

ん？・・・ああ俺か・・・

（ああ・・・俺か・・・って、呑気にも程がねえか？この日・・・
楽しみにしてたんだろ？）

ああ、そうだけど・・・でも、面倒臭いしなあ・・・

（なんなら、俺がやってやろうか？え？）

それはパス。お前が出たら大変な事になるだろうが？其処のところ
考えてる？

まあ良いか・・・。

俺はデュエルディスクを機動させ、ベルトに付いているデッキポーチからデッキを抜き出すと、ディスクにソレをセットする。

「さて・・・やりますかね」

突然だが、俺の名前は【佐藤幸一】高校三年生。

趣味はデッキ弄りとサバイバル生活。

好きな食べ物はラーメン。嫌いな食べ物は茄子。

好きな人は居ないし、嫌いな人も特に居ない。性格は温厚・・・だ
と思う。

友達には居ないし、友達を作ろうとも思わない。

あと変わった所があるとすれば・・・、俺にもう一人の人格『マリク・イシタール』が居ると言う所と、俺が転生者って所か？

前世でトラックに轢かれた。そして眼が覚めると赤ん坊だった。

それだけ。あと、マリクについては良く分からない。何か、いつの間にか居た。当人も理由は分からないらしい。

でも、何処か丸くなってるのか、アニメの中で言う顔芸や、DETH
H GAMEはしない。

まあ・・・やろうと思えば出来るらしいけど。

でも千年ロッドが無いから、出来る事はたかが知れてる。

ちなみに俺の外見は、原作で言う表のマリク。言わば、闇マリクじゃない方。

正直、闇マリクが表に出ても見分けが付かないんだよね・・・うん。

（おい、幸一・・・誰と話してんだ？）

え！？あつああ・・・ワリイ！何か電波が流れてたわ。

（ふうん。まあ良いか。それよりも早くデュエル場上がった方が
良いんじゃないか？何か、先公が叫んでるぜ？）

「試験番号１１番！何をしているんだ？」

おっと、色々考えてたらデュエル場に上がるのを忘れてた。

と言うより何だコイツ？黒髪でリーゼント、しかも黒のサングラス
って……。

趣味が悪いとしか言い様がねえよな……。

（ああ、全くだぜ）

「緊張してるのかな？大丈夫。先生の胸を借りる様にドーンとぶつ
かって来なさい！」

てめえなんかの胸、誰が借りるかつつの……直ぐに終わらせよう。

「さて、じゃあ始めましょう」

そう言いながら、俺はデュエルディスクを構えた。

先公も自分のデュエルディスクを構える。

それを確認するとお互いに叫んだ。

「デュエル！」

「俺の先攻！ドロー！」

俺は相手に確認も得ずにドローを叫ぶ。

この世界、言ったモン勝ちなんだから便利だよな。

「おっと……良いカードを引いたな……俺は、手札から死霊騎
士デスカリバーナイトを攻撃表示で召喚！」

死霊騎士デスカリバーナイト

星4

ATK：1900

DEF：1800

死霊騎士デスカリバーナイトとは効果モンスターの効果が発動された時に強制的に破壊され、効果モンスターの効果を無効にして更に破壊する効果を持つ凶悪なモンスターだ。

「俺はカードを一枚セットし、ターンエンド！」

「（死霊騎士デスカリバーナイト・・・効果モンスター破壊カードか・・・）私のターン！ドロー！・・・ふむ。ならば！私は手札からゴ布林突撃部隊を攻撃表示で召喚！」

ゴ布林突撃部隊

星4

ATK：2300

DEF：0

「死霊騎士デスカリバーナイトへアタック！」

工事のおっさんみたいなヘルメットを被った緑色のピッ。口軍団が馬に乗ったデスカリバーナイトへ襲い掛かろうとする・・・が。

「甘いぜ！俺はトラップカード、拷問車輪を発動！アンタのゴ布林突撃部隊は攻撃出来ず、表示形式も変更できない！更に、毎ター

ン、ライフを500ポイント削られる」

単純だな？と人差し指でビツと試験官を指差す。
試験官は少し驚いた顔を見ると、カードを強く握った。恐らく生徒に指を差された事が屈辱だったのだろう。

良い子は真似しない様にしましょう。

(・・・だな)

「クツ・・・くそ」

試験官は少し戸惑いを見せると、カードを二枚セットしてターンを終了した

「へっ・・・俺のターン。ドロー！この時、拷問車輪の効果が発動！アンタのライフは500ポイント減るぜ？」

沢中国正

LP4000-500〃3500

「くそっ・・・」

「へっ！・・・更に！俺は手札から天使の施しを発動！3枚ドローして、手札から2枚墓地へ送る・・・俺が墓地へ送るのは、暗黒界の軍神シルバと処刑人―マキュラだ！この時！暗黒界の軍神シルバの効果発動！カードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、このカードはフィールド場へ特殊召喚される！」

「しかし、それによって死霊騎士の効果が発動されるんじゃないあ・・・

└

試験官がご丁寧にも教えてくれる。
だが、俺がそんなプレイミスをする様な奴に見えるかね？

「いや・・・されねえよ・・・俺は手札から天罰を発動！死霊騎士の効果を手札一枚を捨てる事によつて無効！捨てるカードは暗黒界の武神、ゴルドだ！」

俺の言葉に観客の中からざわめきが起こる。

その中には野次も含まれており何やら「何で手札から罠カードが発動出来るんだよ！素人が！」とか言ってる奴が居る。
けっ・・・てめえが素人だヴォケ

「処刑人―マキュラの効果は、墓地へ送られたターン、このカードのコントローラーは手札から罠カードが発動出来るんだよ・・・よつて、俺が天使の施しでマキュラを墓地へ送り、天罰を使用したと言つ訳・・・分かる？」

大きな声で野次野郎に言つてやる。
すると野次を言っていた奴は恥かしくなったのか急に静かになった。恥かしがるんなら最初から言つなつての・・・つたく。

└
「さて・・・今、俺の場に居るのは暗黒界の軍神シルバー一体だけ・・・

暗黒界の軍神シルバ
星5

ATK：2300
DEF：1400

シルバの火力は2300・・・が、相手にはゴブリン突撃部隊が居るから、絶対に相殺される・・・そんなのは嫌だから・・・。
ちなみに俺の手札は残り3枚・・・十分勝てるな。

「君のモンスターの攻撃力は2300だ。これではゴブリンと相殺されるぞ!？」

確かにそうだな・・・だが・・・。

「甘いなあ・・・甘い・・・砂糖99個と半分よりも甘いぜ・・・」

「なっ何!？」

考えが合っていたのか、俺の言葉に試験官の表情が焦りに染まっていく。

その表情にマリクが声高に笑い叫びますが、其処はスルーしとくぜ。

「俺は手札からモンスターカード!ダークアームドラゴンを場に特殊召喚する!」

ダーク・アームド・ドラゴン

星7

ATK:2800

DEF:1000

場に漆黒の鎧に包まれたアームドラゴンが姿を現す。

すると会場が「何だアレ!？」とか「見た事ないぞ!」とか騒ぎ出した。

そりゃあそうだろうな・・・何せ、この時点では未だ発売されていない所か、作られてもない代物だ。

そして何よりも、俺が死ぬ前、唯一遊びで作ってたこのデッキの中に入ってたんだからな。

死んで転生した時、手の中にこのカード・・・もとい、このカードが入ってたデッキを握ってたんだ。これが唯一の遺物・・・ってか？

ああ・・・今思い出すと憂鬱になってきた・・・死んで転生して、俺の大好きな遊戯王の世界だったのに、死ぬ時に持ってたのがこのお遊びで作ったデッキだったなんて・・・。

正直、居た堪れないぜ・・・。まあ、結構、お気に入りデッキでも在るんだがね？

「何だね？そのカードは！？」

試験官が我に帰り、首を振ると俺に指を差して質問してくる。

つか、オイ。大の大人が指差すんじゃないやねえよ・・・たく・・・。

（てめえが言えねえだろうが・・・てめえがよ・・・）

え？何か言った？

（チツ・・・別に）

軽くマリクをスルーしながら、試験官の質問に答える。

つか、試験官・・・取り乱しすぎだろ？

「ダークアームドラゴン・・・このモンスターは通常召喚が来ず、自分の墓地に闇属性モンスターが三枚だけ存在する場合のみ、特殊召喚できる・・・。更に・・・」

「さっ更に・・・？」

先を言おうかと思ったが、試験官の驚く表情が見たいがために、趣向を変えた。

「へへっ・・・まあ、試した方が早いか・・・。俺は！墓地に存在する暗黒界の武神ゴールドと、暗黒界の軍神シルバ、処刑人ーマキユラをゲームから除外！そして、この時ダークアームドラゴンの効果を発動！除外した閻属性のモンスター枚数分のカードをフィールド上から破壊する事が出来る！よって、俺が破壊するのは、勿論・・・ゴブリン突撃部隊と、その2枚のセットされたカードだ！」

「なにっ！？」

俺が言うや否や、ダークアームドの効果により試験官のフィールド上に残されていた三枚のカードが無残にも散って行く。

「さあ行け！ダーク・アームド・ドラゴン！相手プレイヤーへ直接トアタック攻撃！」

「くっ・・・くそっ・・・」

沢中国正

LP3500-2800=700

「さあ！これで終わりだ！軍神シルバ！ダイレクトアタック！」

真っ黒な剣が試験官を覆う・・・そして

「うわぁぁぁぁぁ！」

沢中国正

LP700-2300〃-1600

俺は勝負に勝った。

「有難う御座いました」

意気消沈している試験官・・・もとい先公に声を掛ける、が。

(どうやら余程ショックだったみてえだな？ピクリとも動きやしねえよ・・・)

まるで某ボクシング漫画バリの燃え尽き方に俺は溜め息を吐き、ゆつくりと先生に近付いていく。
そして・・・

「先生・・・ほら、立ちなよ・・・」

「うう・・・ん？」

先生はゆつくりと立ち上がる。

しかし、顔付きは生氣を感じさせない。

俺は再度溜め息を吐くと、先生の肩に手を置いた。

「アンタとのデュエル、すげえ面白かったぜ？今度さ、良かったらもう一度やろうぜ・・・デュエル・・・な？」

「え？・・・でも俺はお前に2ターンで「関係ねえよ！」・・・っ！」

「アンタとのデュエルは面白かった！例え1ターンだろうと2ターンだろうと！アンタとデュエルが出来た・・・それで良いじゃねえか・・・な？」

「あつ！ああ！そうだな！私は教師だ！生徒には色々と指導せねばならん立場にある！たかが一度負けたくらいで、グジグジする訳には行かないな！」

「ああ・・・その意気だぜ！」

すっかり立ち直った先公の方を再度ポンと叩き、ゆっくりとデュエル場を降りた。

「ちょっと待ちたまえ！」

「ん？」

クルツと先公の方へ体を向ける。

「君の名前は？」

「・・・佐藤幸一」

「そうか佐藤君か・・・分かった！またデュエルしよう！」

ブンブンと手を振る先公に右手をヒラヒラ振って返す。
そして今度こそデュエル場を降りた。

さて・・・受かると良いんだが・・・。

（２ターンキルだぜ？受かるだろ？）

さあ？だと良いんだがね？

「すいませーん！遅れました！」

「ん？」

（ん？）

ふと、声のする方へ視線を移動させた。

視線の先には元気良くデュエル場へ走っていく青年が居た。

（何だアイツ？もう試験は済んでるんじゃないかねえのか？）

「あ？ああ・・・アイツは受かるよ・・・絶対」

（何でだよ？）

「まあ主人公だから・・・かな？」

（何だそりゃ？）

マリクの質問に不真面目に答えながら、今度こそ俺は試験会場を後にした。

続
く

プロローグ（後書き）

バクラが憑依している小説が在ったので、此方はマリクを憑依させました。

マリクが大好きなので・・・不快に思われた方・・・申し訳在りません。

これからも小説を頑張って行こうと思いますので、宜しくお願い致します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1447p/>

遊戯王GX・顔芸しても良いですか？

2010年12月10日19時36分発行